

船井情報科学振興財団
Funai Overseas Scholarship 2022 年度奨学生
第4回報告書（2年目7～12月）

坂田莉奈
University of Cambridge,
MRC Laboratory of Molecular Biology, PhD Program

1. はじめに

英国ケンブリッジ大学 MRC 分子生物学研究所で博士課程を進めている坂田莉奈です。留学してから1年半が経ち、無事に PhD candidate になりました。今回は 2023 年 7 月から 2023 年 12 月までの留学生活について報告させていただきます。

2. 研究

- First Year Viva (Mock Viva)

イギリスでは博士課程に入ってもまだ PhD candidate ではなくまだ PhD student で、First Year Viva に合格して初めて PhD candidate となります。前回の報告書までは研究結果と今後の計画をまとめた First Year Report を提出し、その後、9月にそのレポートを元に審査が行われました。指導教員以外の2名に発表し、研究に関する質問や議論に応じる形式です。私は現在行っている染色体異常がヒトの初期発生に及ぼす影響の研究について発表しました。知識を試すと言うよりかは自分の研究をちゃんと理解し、説明できているかを評価しているので（私が知る限りアメリカの Qualification Exam とかよりかは）そんなに難しくないと 생각합니다。審査員は指導教員と相談の上、脳の幹細胞モデルの研究をしている Lancaster 先生と、染色体異常を研究している Behjati 先生に審査していただきました。

審査員は同じキャンパスにいないため、オンラインを想定して First Year Viva の招待を送っていましたが、当日はいきなり警備員から Behjati 先生が建物の前で待っているとの連絡があり、少し焦りました。私はコロナで卒業発表もオンラインで行ったが、Behjati 先生にとってはオンライン上の First Year Viva は考えられなかったようです。幸いにも会議室が空いていたため、審査を行うことができました。審査自体は非常に有益で、次の実験の構想にもつながりました。研究室以外の先生に研究の発表をするのは初めてでしたが、好評を得て自信にもつながりました。

- LMB Seminar



PhD candidate に昇格すると、分子生物研究所全体に向けた発表がありました。私の研究室では幹細胞・発生の研究をしているが、研究所では構造生物学、ウイルス学、生化学など分野が離れた研究をしている研究者が多いため、あまり突っ込んだ質問を想定していなかったが、想像以上に質問が多く嬉しかったです。日本よりもセミナー後の質問が活発で、私もより良い質問がきけるようになることにモチベーションを感じました。

3. 生活

- オリエンテーリング

今学期からオリエンテーリングに参加しました。オリエンテーリングは地図とコンパスを利用して目標地点を目指し、スピードを競うスポーツです（宝さがしを大人用にした感じです）。私はこれまでこのスポーツの経験はありませんでしたが、走るが好きで、研究室以外の人と交流することが良いと考え、オリエンテーリングに参加することにしました。このサークルは個性が強い人が多いです。毎週水曜日の夕方にトレーニングを行い、その後は寮でピザとガーリックトーストを食べるのが恒例です。必要なピザの数を出してくれるプログラムをサークルのサイト上がっていて、毎回それを元に買うピザの数を決めます。そして最後の1スライスを食べるのはと失礼らしく、スライスを半分個にしてその半分だけを食べ、無限に小さくなるまで同じことくり返さなければいけない決まりがあります。さらに、半分にするときにはピザを左右対称にする median place で切ることのみ良いとされている。こうした独特な風習も興味深と感じました。

- ケンブリッジ郊外

一年目はほとんどケンブリッジに止まっていたが、今学期はオリエンテーションに参加したのもあり、ケンブリッジの外にも足を伸ばす機会が増えました。イギリス南部は平坦な地形が多いですが、北に行くと山が増えてきます。今年の夏には Lake District と呼ばれる北部の美しい自然公園に行きました。Lake district はイギリスのもっとも大きい自然公園で、Scafell Pike というイギリス最高峰の山や、Windermere Lake というイギリスで一番大きな池があります。Scafell Pike の標高は 978m と東京の最高峰である雲取山の半分以下ですが、とても美しく、イギリスの中でもおすすめの場所です。



ちなみに、イギリスでは北に行くほど人々が優しくなると言われていますが、同時に言葉が通じにくくなると言われています。ロンドンではロンドンより北の地域を「北の人々」と呼ぶことがあります。ケンブリッジではケンブリッジよりもさらに北の地域を「北の人々」と呼ぶことがあるようです。「北の人々」は田舎者扱いされ、ケンブリッジは田舎者扱いされたくないらしい。最近イギリスでもこうした地域あるあるがあると知っておもしろかった。

- ヨーロッパへ

イギリスをもっと知りたいが、イギリスは電車が高いので、実は格安航空に乗ってヨーロッパに行く方がお手軽です。学生に人気の格安航空会社である Ryan Air を利用すれば、スーツケースなしで1万円弱で様々な国への往復チケットが手に入ります。研究を進めたいので、そんなには遊びには行けませんが、土日だけでもたまに短い旅行に行きます。

昨年の12月はノルウェーに行きました。ヨーロッパのクリスマスは日本の正月みたいに、通常家族と過ごすことが多いですが、友達はノルウェーのクリスマスも体験してほしいと実家に招待してくれました。ノルウェーと言えば雪やオーロラが連想されるかもしれませんが、友達の实家は南部 Stravanger という、ノルウェーではとても温かく、冬でも雪がほとんど降らない街

出身でした。クリスマスは豪華な食事をご馳走になり、お母さんと兄弟の話を聞けてとても暖かいクリスマスを過ごしました正月は友達と一緒に過ごすことが一般的で、友達が住むノルウェーの首都 Oslo に半日かけてドライブしました。年越しは友達の友達と一緒に家で寿司や蕎麦などを作って食べ、カウントダウンの瞬間は街で花火などで盛り上がりました。元々知らない人たちとすぐに仲良くなるのは得意ではありませんでしたが、こうした出会いを通じて社交的な能力も向上させていきたいと思っています。



3. 最後に

船井情報科学振興財団からのご支援、心より感謝してます。留学資金だけでなく、夏の交流会などに参加させていただき、他の奨学生と交流できる機会があり、海外の大学院での研究に励むモチベーションが一層高まりました。来学期も研究に頑張ります！